

春静寂なる

(昭和二十三年逍遙歌)

中島通雄君 作歌
佐々木淳君 作曲

一

春静寂なる石狩の
曠野に漂泊ひて人を哭き
秋蕭々の寮窓に倚り
夕雲遠く友を呼ぶ
北斗の啓光さしそえど
哀れ悲しき旅ならむ

二

北溟ゆく雁は名のみにして
暮る秋風に啼く虫か
榆梢に喘ぐ郭公か
はた又魂の語らひか
現の波濤は荒くとも
知るや無象の天の外

三

十勝の峰に断雲怒り
白銀吼ゆる朝風も
奇しき調の琴と聴き
燃ゆる理想に悶えつつ
ただひたぶるに辿りゆく
長き生命の斗争に

四

自然の芸術変らねど
何処に祓所を尋めゆかむ
ああ孤独の寂寥を
味はひ知れる人ならで
誰に語らん入相の
鐘鳴りひびく榆陵の上

五

花咲き散りて春秋の
遷りてここに三星霜
逝にし遊宴の宵の夢
たぎる情熱を篝火に
残恨の杯を汲み交はし
高唱はなんかな自治の歌

六

今逍遙の原野に萌ゆる
森の翠の色深く
行手遙けき豊平の
清流に泛ぶ綺花の影
哀れ愛しき絢夢なれど
我が生命こそ真なれ